企画展

# 新収蔵品展

～ 20 世紀を語るモノ～

平成 12 年 6 月 14 日～ 8 月 20

宮代町郷土資料館

# 開催にあたって

郷土資料館では町民の皆様から民具など、数多くの資料をご寄贈いただいております。現在、その数は約 1，500 点にのぼり、昨年度は 140 点あまりのご寄贈をいただきました。

これらの資料の一つ一つが、近年、急激に変貌を遂げている私たちの暮らしの移り変わりを物語る貴重な「証言者」です。中にはすでにその使用年代や使用方法が分からなくなっているものもあり、過去の生活文化を後世に伝えるために郷土資料館では町民の皆様のご協力をいただき、今後も継続的に収集を続けて参りたいと考えております。

さて、今回の展示では、昭和 30 年代ごろまで家庭生活の中で使用された民具を中心に紹介します。また、県内最古のキリスト教会である和戸キリスト教会の改築にあたって寄贈いただいた創建当初のステンドグラスも合わせて展示いたしました。

この展示を通して郷土宮代の近代史や生活文化の変遷の一端を知っていただき、理解を深めていただければ幸いです。

最後になりましたが、ご寄贈いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

平成 12 年 6 月

宮代町郷土資料館

和戸キリスト教会

# 家族といる時間

## 昔の暮らし　台所

郷土資料館の野外施設、旧加藤家住宅。1 歩足を踏み入れるとひんやりとした空間があります。そこは広い土間。土間の左手に板の間があり、その奥には田の字型の座敷があります。このような作りの茅葺き民家では板の間で食事をし、炊事は右手にあるかまど等で行いました。水は、宮代町では昭和 36 年に上水道が完備されるようになるまでは、井戸水を使用していました。

1　**水桶**　　毎朝、1 日の炊事で使う量の水を井戸からくみ、水桶や水がめに入れます。

2　**おひつ入れ**　米は羽釜（はがま）で炊き、おひつに入れて保存します。

3　**すりばち**　　ごまなどをするのに用いました。

4　**べにばち**

団子を作るときに米の粉（新粉）をこねたり、そばをこねたりしました。
木製のこねばちと同様の利用方法です。

5　**箱膳**

ちゃぶ台が普及した昭和まで、一人一人が箱膳を使っていました。箱膳は一人分の食器をしまっておき、食べるときにはふたを裏返して膳にするというものでした。

# 人々とのつながりのなかで

## すこし昔のお金

ここで展示しているのは昭和のはじめに使われていた硬貨です。大正時代、銀の価格の上昇によって白銅貨が登場し、太平洋戦争が激しくなるにつれて白銅貨はアルミ貨にかわり、さらにアルミを航空機の機体に使用するためアルミ貨は薄く、小さくなりました。そしてさらにアルミ貨に替わる錫貨が登場。このように時代の情勢によってほんの数十年の間にさまざまな硬貨が作られたのです。

すこし昔のお金（硬貨）

すこし昔のお金
（紙幣）

## 消防　地域社会を守る

1　**刺し子ばんてん**　細かく刺し縫いしてあるため大変丈夫にできています。このような刺し子ばんてんは消防活動に着用された衣服です。これは東京から宮代に疎開した親戚から譲り受けたものだそうです。

2　**消防信号**　和戸沖の山地区の消防小屋だったところに張ってあったものです。木の枠があるほうが古い時代のものと考えられます。
沖の山地区の消防分団で用いられたもので、火事の際、半鐘の打ち方によって近火、出場、応援、報知、鎮火を知らせました。

3　**バンギ**　これは火事の急を知らせたり、時間を知らせる道具です。

1

2

3

# はかりのいろいろ

## てんびんばかり

物の目方を量るはかり。量るものに合わせて、はかりもさまざまです。ここに展示してあるはかりはてんびんばかりです。その使用方法はさおに物をかけて（あるいは皿に乗せて）さおの端に分銅をさげて水平になる位置まで動かします。さおには目盛りがあり、その示す数字が重さです。てんびんばかりには表と裏があり、表 100 匁・裏 200 匁、表 1 貫目・裏 2 貫量れるもの、大型のさおばかりは米俵を量る用途で用いられ、60k g 以上量れます。

# コーナー展示

荷車

鬼瓦

## 和戸キリスト教会のステンドグラス

宮代町には埼玉県内で最も古い歴史をもつ和戸キリスト教会があります。

明治 5 年、和戸村の名主小島九右衛門は蚕卵紙用の紙をヨーロッパから輸入し、それに蚕の卵をつけて輸出するために横浜港へ出向きます。明治 7 年、胸を病んだ九右衛門は医師ヘボンに診療してもらったことをきっかけに洗礼を受け、明治 11 年埼玉県内最古の和戸キリスト教会を設立し、建物が明治 15 年に建てられました。

昭和 30 年に教会が現在の地に再建されたとき、創建当初のステンドグラスと十字架、そして説教台が用いられました。そしてこのたび新しい会堂が建てられることとなり、創建当初のステンドグラス 6 枚のうちの 2 枚が郷土資料館に寄贈されました。

## 鬼瓦

鬼瓦は、棟の切り口を隠すためと、装飾，魔よけのために使われる瓦です。展示品は寄贈いただいた矢部家の蔵のもので家紋が入っています。 「文化四年丁卯四月吉日尾州邨森村住（カ）□仲井八百蔵」と彫られ１９３年前に作られたことが分かります。明治から大正の製瓦事業統計表によると尾州、つまり愛知県は兵庫県についで全国 2 位の瓦の生産量を誇っていました。江戸時代の文化期もおそらく同様の傾向であつたと考えられ、当時の瓦の流通を考える上で貴重な資料といえます。

## えなつぼ

えなつぼは胎盤（えな）を入れるつぼです。これは東京で昭和 20 年ごろ使用されていたもので、元助産婦であった方から寄贈いただきました。東京では助産婦がこれに胎盤を納め、エナヤという回収業者が集めました。

えなつぼの底には亀の絵が生まれた子の長寿を願って彫られています。なお、そのころの宮代では胎盤は紙に包んで大戸（玄関）のところに穴を掘って埋めました。「子供が初めてそこを踏んだ人を怖がる」ともいわれ、父親がまず踏んだそうです。

**おかもち**

これは寿司店から寄贈いただきました。10年くらい前まで配達に使用していましたが、自動車の普及とともに使わなくなりました。中には格子が入っていて食器がぶつかりあわないよう工夫されています。胴のタガが変色しないよう、手入れをよくしたそうです。

**椀・小鉢**

自宅で行われた昔の結婚式は出席者が多く、食器がたくさん必要でした。この椀のふたには「庄」という文字が書かれています。屋号の一字を入れたり、地区で椀を共同購入した場合は、地区名の一字が入ることもあります。

**せいろ**

蒸し料理全般に使われる道具です。羽釜に湯を沸かし、その上にせいろを置いて蒸気で蒸します。主に、家や地域の行事の時などに作られる団子や赤飯などを作るときに用いられます。

**ほうろく**

ごまなどを煎るのに用いました。

**展示風景**

# 家族といる時間

## 昔の暮らし　茶の間

茶の間の主人公はテレビ？　という感さえある現代ですが、ひとむかし前はここに家族が集まり、一日の出来事を話し合ったり、子供達は宿題をするなど一家団らんの場でした。

1

2

3

1　たんす　　嫁入り道具の必需品。たんすには「一生着られる着物」を入れてきました。そのために若いころには地味で着られないものも多かったようです。

2　行李　　柳や竹や膝で作った荷物入れです。たんすには晴れ着を入れ、よく使う野良着は行李へ、というように用いている家もあります。

3　火のし　　アイロンの前身です。木綿の着物を洗うときは、糸をほどいて反物にし、張り板に張って（洗い張り）干します。その後、この火のしでしわを伸ばしました。火のしには炭を入れました。

4

5

6

4　キセル　　喫煙の風習は江戸時代から広まりました。竹やあしの筒に金属製の雁首をつけたものと、全体が金属製の 2 種類があります。

5　机　　明治初年、西条原の矢部家で開かれた寧倹義塾（ねいけんぎじゅく）。ここで寺子たちが用いた机です。

6　机　　明治 35 年生まれの方の机です。きちんと正座しないと使えない机です。現代ッ子には使えないかも知れませんね。

7　小学読本

8　獅子頭

9　そろばん